

東海大学建築会卒業設計賞 2014

審査評

審査員 竹内宏俊 /O.F.D.A.associates



今年初めて審査に参加させていただきましたが、久しぶりにみる卒業設計は、よくもわるくも今の社会状況や建築的な流れを学生が敏感に感じ取っていると感じました。作品のタイトルを見ても、コミュニティーや交流、まちや商店街、団地などの再生を冠したものが大多数を占めており、一昔前の図書館や美術館と言ったいわゆるアーキタイプにハマらない、建物に明快な機能や用途が求められる事が出来ないような作品が多かったと思います。建築の「かたち」が明確でないだけに、研究調査や建築的ストーリーはよく考えられており、どの作品もある一定のレベルに達しているのですが、逆に突出した作品が無く審査する側の難しさを痛感しました。

そうした中でも、1次審査で票を入れた作品と受賞作3点を含め、気になった作品について講評したいと思います。本問案の「あわい情景」は、ホワイトアウトという自然現象を空間化しようとしたところみたもので、今年作品の中では純粋に建築空間をつくらうとした異色の案だったと思います。設計手法としては、やや古臭くも感じますが、ある意味で建築の王道に取り組んだ点は好ましく感じました。ただし、結果として出来上がった空間があまり魅力的でなく、説得力にも欠けていたので残念ながら票を入れませんでした。土方案の「よくあそび。よくまなぶ。」は、ルーフとマウンドの起伏により、幼稚園の園舎と園庭を一体化しようとするもので、子供にとって非常に魅力的な空間になっている案だと思います。しかし、空間のフレキシビリティを重視するあまり、具体的な使われ方に対する提案が弱く、その魅力を伝えきれていなかったと思います。北島案の「日常に異文化を」食文化を通じて国際交流をはかる施設の提案で、テーマとして非常にわかりやすく、空間の使われ方が具体的にイメージ出来る点良かったのですが、ファサードやヴォリューム設定、既存の市場の魅力を活かさきれていないなど、立地の特異性を建築に上手く反映出来ていなかったのが、残念でした。惜しくもの賞を逃した山中案の「0（ゼロ）」は、行政の震災復興計画に対するアンチテーゼとして、日和山と高盛道路の避難動線を仮想GLによって可視化しながら子供を中心とした施設の提案で、震災復興あるいは卒業設計に対して真正面から取り組んでいる姿勢を高く評価しました。その一方で、避難動線の建築化という考え方は良かったものの、一律の高さに設定された仮想GLのあり方は、極めて行政的であり、その点が引掛り、彼の案を最後まで押しきれませんでした。優秀賞の三木案「町工場を町に近づける」は、日本のモノづくりを支える町工場が、新興住宅の宅地化の波に飲まれる中で迷惑施設となりつつある現状に対し、廃工場を新旧の住民の地域交流の場に転用することで、相互理解を深めようとする提案は、非常に評価できるのですが、廃工場をつなぐ空中回廊のあり方が、やや乱暴でありスタディが十分されていない点が何えてしまったのが残念でした。

最優秀賞の半田案「接地性のある建築」は、個人的にはコア回りのプランニングが破綻している点が気になり選考過程では異議を唱えましたが、木造密集市街地の路地空間にヒントを得た空間構成を垂直方向に展開させることで、多層階建築の新たなビルディングタイプを提示している点良かったと思います。白井案の「旧街街道を取り戻せ」は、歴史の中で埋もれ忘れ去られたしまった旧街道に観光案内所などを設け、豊川稲荷を中心とした新たな観光ルートとして整備しようとするもので、彼女が言うところの街道をイメージした町家的な配置とかつて栄えた鋳物業を想起させる屋根のデザインに他の作品にはない独特なものを感じ、高く評価しました。しかし、他の受賞作に比べるとカタチに対する建築的な説得力が弱く、その点が他の審査員の先生方の評価につながらなかったのだと思います。もう一つの優秀賞の野川案「長岡駅前大雁木広場」は、シャッター商店街となってしまった駅前大通りのアーケードを撤去し、雁木をモチーフにした屋根により道路を広場化する案で、一見無造作に屋根を架けているように見えながら、雪を落とす方向や屋根下の用途との兼ね合いなどがよく考えられており、道路に屋根を架ける案が幾つか見られた中では、一番建築的に考えられていたと思います。ただ残念なのは、アイレベルのパスや、スケールの大きい部分模型などが無かったため、その面白さを十分に伝えるプレゼンが出来ていなかったと思います。野路案の「時を繋ぐ町並み」は、駅前に大学施設を設け、旧商店街を下宿化することで野川案とは異なるアプローチで、シャッター商店街の再活性化を目指す案で、そのストーリー性にリアリティを感じ評価しました。ただ、そのためのプロトタイプとして、旧商店街を模した建物を駅前に新たに建てるという点や、プロトタイプと言いつつ増改築の具体的な案を提示していなかったのが残念でした。